

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの
更新プロジェクト

排出削減事業者名：川端製紙株式会社 印

排出削減事業共同実施者名：株式会社F Tカーボン 印

排出削減事業共同実施者名：合同会社F Tカーボンマネジメント 印

その他関連事業者名： 印

申請日：2019年11月7日

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	3
2.1	排出削減事業の名称	3
2.2	排出削減事業の目的	3
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	3
2.4	J-クレジット認証要件の確認	3
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	3
2.6	排出削減事業に関わる設備（詳細）	4
3	排出削減活動期間	5
3.1	プロジェクト開始日	5
3.2	モニタリング対象期間	5
4	温室効果ガス排出削減量	5
4.1	採用した排出削減方法論の情報	5
4.2	活動量	5
4.2.1	活動量・原単位	5
4.2.2	活動量の採用根拠	5
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	5
5	モニタリング対象指標	6
6	モニタリング体制	6
6.1	モニタリング活動担当者・責任者	6
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	7
7	排出削減量の計算	8
7.1	事業実施後排出量	8
7.2	ベースライン排出量	8
7.3	リーケージ排出量	8
7.4	温室効果ガス排出削減量	8
8	省エネルギー量	9
9	再生可能エネルギー利用量	9

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	川端製紙株式会社
排出削減事業を実施する事業所 (複数の事業所で実施する場合、行を挿入し全事業所を記載すること)	
事業所名	本社工場
住所	〒910-0124 福井県福井市天池 38
排出削減事業共同実施者 (J-クレジット保有予定者)	
排出削減事業共同実施者名①	株式会社F Tカーボン
その他関連事業者	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

現在稼働している A 重油ボイラ 6 基のボイラ機能の一部を木質バイオマスボイラ 1 基へ更新する。木質バイオマスを使用することによって、CO2 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

木質バイオマスはカーボンニュートラルが適用され、CO2 を実質的に排出しないものとみなされるため、現在使用している A 重油ボイラを木質バイオマスボイラに更新することで、CO2 排出量を大幅に削減する。なお、A 重油ボイラは、引き続きバイオマスボイラのバックアップ用ボイラとして稼働させる。

2.4 J-クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

【第 3 回目の認証時に申請】

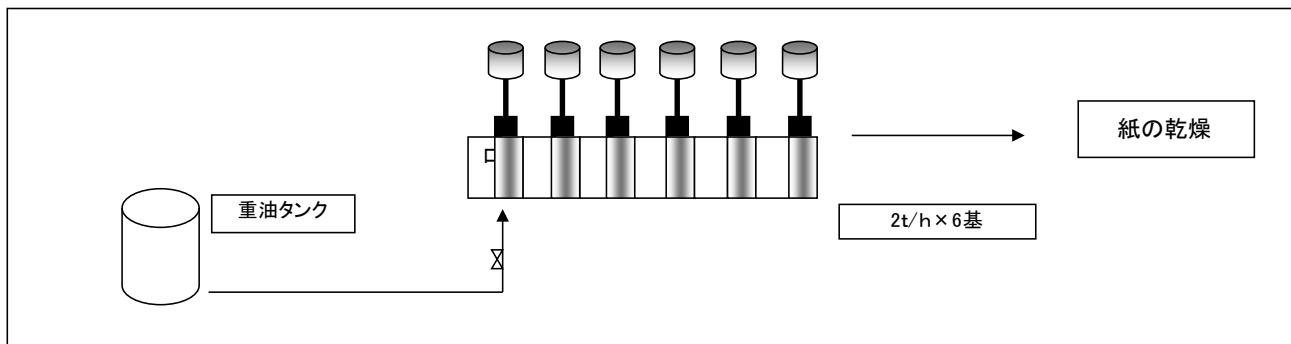
○排出削減事業共同実施者の追加

排出削減事業共同実施者名	合同会社 F Tカーボンマネジメント
--------------	--------------------

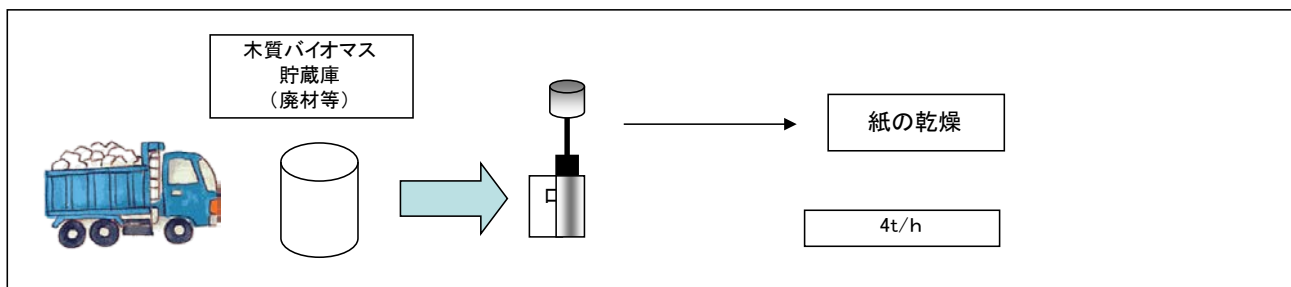
2.6 排出削減事業に関わる設備 (詳細)

(備考) A 重油ボイラから木質バイオマスボイラへの更新プロジェクトの概要

(排出削減事業実施前の設備概要)



(排出削減事業実施後の設備概要)



(排出削減事業実施前の設備)

設備名称(メーカー・型番)	サムソン SSB-21PLX
設備導入時期	2006年9月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	95% (カタログ値、低位発熱量基準)

同機種を4基設置

設備名称(メーカー・型番)	サムソン SSB-2000EPLX
設備導入時期	2009年9月
法定耐用年数	15年
直近の法定検査受審日	なし
設備効率	95% (カタログ値、低位発熱量基準)

同機種を2基設置

(排出削減事業場所の画像)



(排出削減事業実施後の設備)

設備名称(メーカー・型番)	タカハシキカン KT-CL-400
法定耐用年数	15年
設備効率	73.7% (カタログ値、低位発熱量基準)

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2011年6月13日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2016年4月1日 ～ 2019年6月12日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない。

4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

バイオマスボイラー及びボイラーから蒸気の供給を受ける設備

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に 変更ある場合、) 変更理由
W _{PJ}	バイオマスボイラ給 水量	t	64,925.68	給水メーターによる計測デ ータ	変更なし
B _{PJ}	ブロー率	%	9.7	水質分析報告書の計測デー タを用いて管理値を計算	変更なし
H _{steam,PJ}	蒸気比エンタルピ ー	GJ/t	2.769 (0.83MPa)	蒸気圧メーターの計測デー タを用いて計算	変更なし
H _{water,PJ}	給水比エンタルピ ー	GJ/t	0.419 (100度)	温度計の計測データを用い て計算	変更なし
ε _{BL}	事業実施前 A 重油ボ イラ効率	%	90.25 (高位発熱量)	カタログ値	変更なし
CF _{fuel,BL}	A 重油の単位発熱量 あたりの CO2 排出係 数	tCO2/GJ	0.0708	J-クレジット制度のデフォ ルト値	変更なし

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
EM _{PJ}			0.0

6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
64,925.68 (t)	2.769 (GJ/t)	0.0708 (tCO2/GJ)	
9.7 (%)	0.419 (GJ/t)		
90.25 (%)			
EM _{BL}			10,806.7 (t-CO2)

6.3 リークエージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM_{BL}</i>	10,806.7
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	0.0
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	10,806

7 省エネルギー量

本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量はない。

8 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2016年4月1日 ~ 2019年6月12日)			
		エネルギー使用量	熱量換算 (GJ)	原油換算(kl)
	単位	(実績)	(実績)	(実績)
バイオマス熱利用量	GJ	186,856 GJ	186,856 GJ	4,820.9 kL